企画委員会報告

企画担当副会長

近藤 邦雄 Kunio KONDO

1. はじめに

本文では、企画委員会の活動内容について述べる。この10年間の大きな活動は、(1)大会、本部例会の関東地区以外の開催、実行委員会体制の確立、他学会との連携、(2)図学教育研究会との連携による図学教育実態調査の実施、(3)第1回デジタルモデリングコンテスト、(4)論文賞などの設置、(5)表彰状のデザイン、盾の選定、ネクタイピンなどの作成、(6)記念出版の計画、(7)国際会議のツアーの実施などである。今後の課題は委員が集まって会議をする体制の確立である。以下では、「理事会報告」から企画委員会の主な活動事例を示す。理事の方々の学会活動へのご尽力に対して、氏名を記して深く感謝する。

2. 理事会に見る企画委員会の業務内容

1999年6月4日 第352回理事会

論文賞等について：堤理事より「研究論文賞」及び「大会発表論文賞」創設の提案があり企画担当理事において検討することとした。

1999年7月2日 第353回理事会

企画担当理事において、本部例会の位置付けの検討を行うこととした。企画及び編集担当理事において、ネットワークを利用した情報交換、各種書類の書式作成などの学会の情報発信についての検討を行うこととした。

2000年2月28日 第358回理事会

企画関連（平野副会長、荒木理事）：以前より議論のあった企画委員会と他の委員会の共同あるいは委譲作業について検討を行い、次のような結論に達した。「図学研究」に関する広告について新規企業獲得、企業の業種や広告掲載の規則等についての素案を、企画委員会において検討することにした。

研究論文賞、大会発表論文賞について実施するかどうかも含めて、期間、規定等についての素案を企画委員会にて検討することにした。

大会関連：毎回の大会の方向付けなどを企画委員会で検討することにした。

Webへの掲載記事について：掲載記事や実際の作業の

内容について、文献調査委員会で検討することにした。

学会作業全般の電子化について：編集、庶務を含めた拡大企画委員会において、検討することにした。

2001年6月15日 第374回理事会

企画担当理事の業務内容について（近藤理事）：どのような企画を立てるかについて検討を行った。企画担当理事が中心になって、例会の大会化の是非、図学教育の現状調査などについて検討していくことになった。

2001年10月26日 第377回理事会

企画委員会報告（近藤理事）：第2回企画委員会において検討された事項について近藤理事から報告があり、それを基に議論を行った。

名誉会員の資格条件について：委員会から提案された資格条件に対して、学会への貢献や、複数の会員からの推薦などの条件も加えることなどが議論され、今後さらに、内規化について検討することになった。

大会の改革について：全国大会を春秋の2回にすることについては、現状では実施しにくいのではないかと報告があった。本部例会や支部総会における研究発表を図学研究に掲載することから取り組んでいくことになった。

論文賞について：適切な賞の設置によって、研究意識の向上や啓発が期待され、さらに、会員・投稿者の増強にも寄与するものと期待されるとの報告があった。基本的には賛成という意見が多く、今後、大会の発表も対象に含めた賞や、若手のための奨励賞、教育を評価した賞や功労賞などの設置について検討していくことになった。第10回 ICGG（キエフ）のツアーについて：検討中の案について報告された。現時点で危険度の高い国は、ツアーからははずすことにした。

教育研究会の共催について：2002年2月21日に開催される情報処理学会グラフィクスとCAD研究会に共催することが提案され、承認された。

図学教育のシラバスに関するアンケートについて：シラバスの内容や記入形式について検討を進め、12月に開催される図学教育研究会に向けて資料整理を行うと共に、

来年度実施するアンケートについて検討を進めていること、などが報告された。

日本学術会議の教育シンポジウムについて（小林理事）：これまでは高校までの科学技術教育が中心であったが、今後は大学における科学技術教育も取り扱われる方向で進んでいることが小林理事より報告された。

2002年 3月25日 第381回理事会

第10回国学国際会議について：今淵理事より、国際会議参加ツアーの日程変更についての報告があった。

2002年 5月11日 第384回理事会

コンパス型のネクタイピンについて（面出副会長）：企画委員会で検討された案として、コンパス型のネクタイピンの頒布方法について案が出された。

2002年 7月12日 第386回理事会

図学関連教育の現状調査について（近藤理事）：図学教育研究会と企画担当理事のメンバーを中心に調査委員会を立ち上げて、調査実施母体とすることが了承された。設計工学会のアンケートも参考にして質問票を作成し、支部の協力のもとに送付、集計を行うことが確認された。

2004年10月14日 第410回理事会

図学会の表彰について：近藤理事より、企画担当理事を中心に検討した案について説明があった。図学研究への投稿論文を中心とした3種類の賞（図学会賞、論文賞、図学教育賞）と、大会等での発表を中心とした2種類の賞（研究奨励賞、優秀研究発表賞）が提案された。

2004年12月3日 第411回理事会

図学会の表彰について：おおむね提案の方向で賞を設けることが承認され、2005年度の大会からの実施を目指して、今後、選考方法や賞を授与する時期などに関する表彰規定を検討することになった。

2005年 4月27日 第415回理事会

図学会の表彰について：「優秀研究発表賞」と「研究奨励賞」を選定する方法を検討した。2005年度大会では、6つのセッションを2つのグループに分けて、各グループの発表について各セッションの座長を含む5名の選定委員が検討して候補を選定するという方式でやってみることにした。大会までに、近藤理事と鈴木会長で詳細を詰めることになった。

2005年 7月15日 第419回理事会

本部例会関連（大村理事）：本部例会（摂南大学）における特別セッション「CADシステムとその図学教育への応用」の計画案が示され、承認された。

図学表彰制度：「研究論文賞」および「図学教育賞」の

表彰規定に関する変更の提案がなされた。議論の結果、選定委員長には図学研究編集委員長があたることとし、第7条として日本図学会賞の規定「選考委員会は翌年の通常総会において、選考結果を報告し、総会の議をへて受賞者を決定する」に準じた条項を追加することとした。

2005年 9月13日 第420回理事会

40周年記念特別企画案の一つとして、図学教科書シリーズが提案された。

2006年 2月14日 第424回理事会

「研究論文賞」「教育論文賞」の選定手順（倉田理事）：表彰選定の手順案の説明があり、承認された。3月の理事会で最初の論文賞の選定結果が報告され、承認にかけられることに決まった。

2006年 3月24日 第425回理事会

40周年記念事業：寄付金の募集を行うかの検討を行った。その結果、募集を行う方向で準備を進めることを決定した。40周年表彰を行うかについて、庶務担当で検討することとした。

2006年 5月12日 第427回理事会

論文賞に関連する審議内容が報告された。今年度は教育論文賞とすることを確認し、堤江美子氏『オーストリアの図法幾何学教育と空間認識力』（図学研究第38巻1号掲載）の受賞が承認された（倉田理事）。論文賞の表彰状のデザインを決定した（村松理事）。

2006年 7月21日 第430回理事会

本部例会関連：企画セッションとして「スタイリングとCG」を予定していることが報告された。このセッションの企画の一つとして東正毅先生（豊田工業大学）に「自由曲面の研究について」という1時間程度の講演を依頼したことが報告された。

2006年11月17日 第433回理事会

町田理事より、第1回デジタルモデリングコンテストの企画案が出され、大会時の展示に至るまでの応募／審査日程、応募書類（含誓約書）、作品賞、実施規約についての問題点が検討され、若干の変更を前提に承認された。

こんどう くにお

日本図学会副会長、図学教育研究会委員長
東京工科大学教授